

## 天理市立柳本小学校

## ほんとうの優しさって？

今日はあいさつ運動の日。少年警察補導員の方々と一緒に校門前でたっていると、6年生の女の子が、「校長先生、1年生の子（Aちゃん）が足が痛くて泣いてる！」と息せき切って坂道を走ってきてくれました。

「早く伝えなくては」という思いでいっぱいだったのだと思います。

慌てて迎えにいくと、立ちすくんでいるAちゃんの前を通りかかった6年生の女の子たちが、ひとりは荷物を持ってあげ、ひとりはAちゃんを抱っこしながら、学校の方に向かってくるではありませんか。

「校長先生、遅くなるから、他の分団の子は先に行かせました。」とのこと。

「ここからは、先生と交代しよう」とAちゃんを引き受けましたが、学校につくまで、Aちゃんのランドセルを持ってくれたり、私の立哨旗を持ってくれたり、フォローをしてくれました。

今日改めて、「優しさって？」と考えさせられました。皆さんはどう思いますか？

「優しさとは？」と尋ねられると、例えば「情があること」「思いやり」などが、よくあげられます。「思いやり」とは「思い」を相手に対し「やる」ということです。

例えば、友だちがとでもつらい経験したとします。自分も過去に、同じような経験があれば「あなたの気持ちわかるよ」と相手に深く同情するでしょう。

相手のつらい姿を見ていると、どうしても放っておけない、また特に自分も似たようなつらい経験や苦しい体験を経験していた場合、自然と相手を「思いやる」ことができるものです。（だから失敗も含め、いろいろな経験や体験が人を強くし優しくするのですね）

けれども、「優しさ」というものは、それだけではないと思うのです。本当の優しさというのは、自分に経験のないことに対しても思いやりを持つことができるかどうかということではないでしょうか。

「あなたと同じような経験はないので、あなたの気持ちになりきることはできないかもしれないけれども、何とか少しでもあなたのつらさ、苦しさを理解したい。あなたと一緒に悩みたい。」と相手の気持ちに寄り添えることなのではないでしょうか。

言葉が上手とか表現がうまい人が「優しい」とはかぎりません。優しさは「肌で感じて」「行動にうつして」はじめて相手に伝わるものなのです。

さあ、あなたのまわりに、ちょっと優しい気持ちになれば、ちょっと相手を思いやることができたら、トラブルが解消し、お互いに温かい気持ちになれることはないですか？

今日は朝から、6年生の行動に感動させられ、思わず「ひとりごと」を書きたくなりました。